３　計画の基本方針

（１）目指す将来像

課題解決に向けた取組の方向性を踏まえ、『日本平公園が目指す将来像』を、次のとおり設定しました。

日本平公園は、日本平の優れた「風景」を活用しながら、将来に渡って継承していくことを目的とした公園です。

今後は、日本平夢テラス等からの眺望を楽しむことに加えて、公園内での散策や休養、イベント等での利用を通して日本平の風景の素晴らしさを多くの人に体験してもらえるよう、「訪れた人が心地良く過ごし、絶景の感動体験ができる公園」の実現を目指します。

また、この将来像の実現によって多くの人が来訪し、日本平に関わるようになります。こうした人々との関わりが日本平の活用を促すことで、日本平と周辺の地域が活性化します。周辺地域の活性化はさらに多くの人の来訪につながり、日本平の活用を促進し、地域が活性化する『好循環』が生まれます。

日本平公園の整備によってこの『好循環』を生み出し、基本計画の理念である「人々の心が豊かになるまち、地域経済が潤っているまち」の実現に貢献していきます。

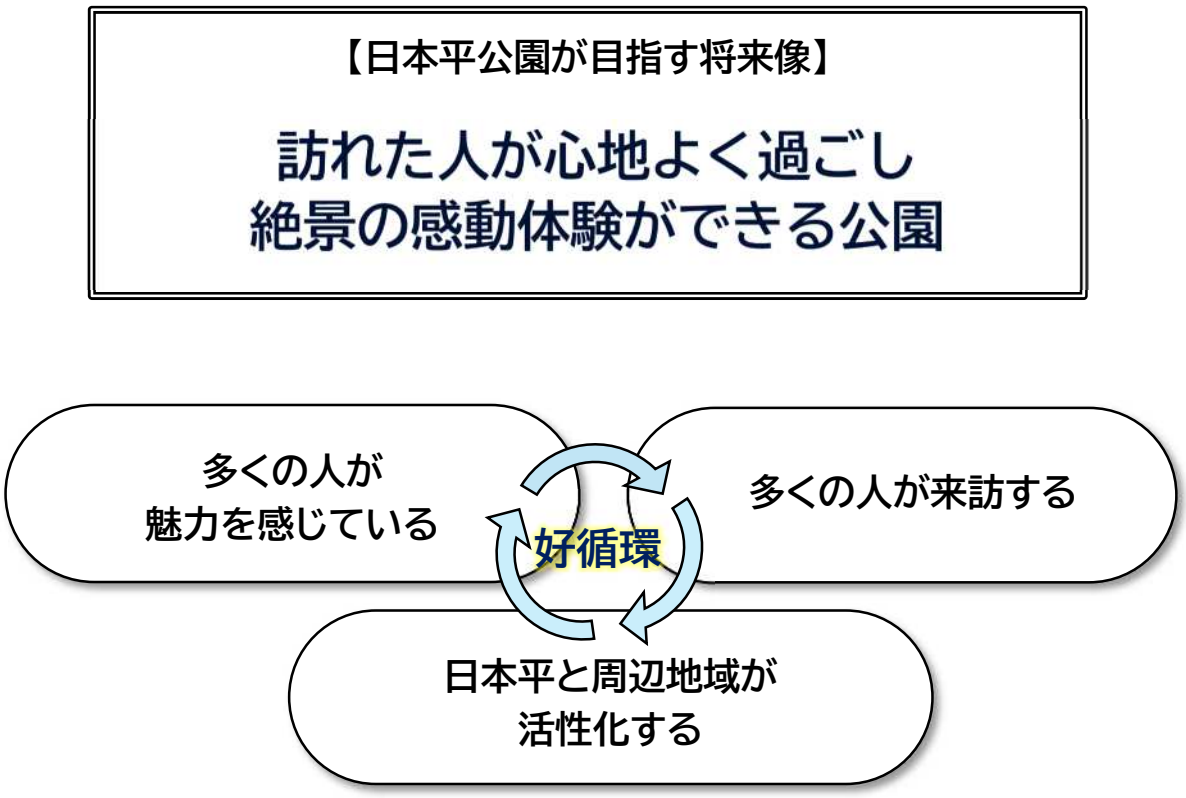


図 11　目指す将来像の実現によって生まれる『好循環』のイメージ

（２）計画の基本方針

「日本平公園基本計画」では、当初の計画策定時から『風景美術館＝日本平』をテーマとしてきました。

この『風景美術館』とは、優れた四周の眺望と富士山の「変わらぬ風景」と、これらの風景が四季や時間の経過で変化する「移ろう風景」、これらの風景の背景にある文化に触れる「心象の風景」を、“美術館のように回遊しながら観賞できること”を公園づくりのテーマとしたものでした。

新たに設定した公園の将来像「訪れた人が心地よく過ごし、絶景の感動体験ができる公園」は、計画当初からのテーマである『風景美術館＝日本平』の考え方を継承しています。

今後は、この公園の目指す将来像の実現に向けて、次の３つの基本方針に沿った取組を実施し、名勝の価値＝「風景」を体感できる公園としての機能をさらに高めるとともに、日常的な散策や休息、イベント等にも活用できる公園としていきます。

【基本方針】

① 季節や時間の変化を感じながら「風景」の中で過ごせる公園づくり

② 「風景」にまつわる歴史や文化を体験できる公園づくり

③ 多くの人と 名勝の価値＝「風景」を共有し、日常的に活用できる公園づくり

（3）主な取組の内容

1）回遊性の向上、滞在型の利用への対応

日本平公園は、短時間での眺望観賞が主体の利用が中心となっています。

今後の取組により、日本平公園を短時間で眺望を楽しむ場所にとどめず、回遊、滞在できる公園へと転換します。また、市内観光の拠点として、周辺の観光地や文化・自然資源とのつながりを強化し、日本平を起点とした周遊や滞在を促進します。

＜具体的な取組内容＞

・公園の中央に、情報発信や、飲食・休憩等の来訪者へのおもてなし機能を備えたビジターセンターやイベントスペースを整備する。

・徳富蘇峰が選定した眺望地点や富士見の視点場の間を結ぶ園路を整備するとともに、植栽等の修景により、移動そのものが楽しめる空間づくりを行う。また、公園内の巡回バスや低速電動カートの導入等により、だれでも快適に回遊できる仕組みを検討する。

・公園利用者のための十分な駐車場を確保するとともに、大型バスやタクシーのほか、将来の普及が見込まれる新たなモビリティ等の多様なアクセス方法にも対応可能なエントランス空間を整備する。

2）歴史文化体験機能の向上

日本平の本質的な価値は、優れた四周の眺望とそれを取り巻く周辺の自然や歴史、人々の営みが重なり合って形成されている景観＝「風景」です。

今後の取組により、日本平の「風景」を形成する自然環境、歴史、伝承、人々の顕彰等を学び、体験できる環境を創出します。

＜具体的な取組内容＞

・徳富蘇峰が選定した眺望地点や富士見の視点場づくりによる眺望地点の充実に加え、映像やデジタル技術等を活用した資料展示、体験茶畑等の学習施設を整備する。

3）多様な主体が関わる公園マネジメントの推進

これまでの日本平公園では、眺望を楽しむための施設整備を中心に進めてきましたが、整備した施設の適切な維持管理や、公園の利用促進に向けた管理運営の充実が課題となっています。

今後は、施設の維持管理の質を高めるとともに、イベントの開催や周辺観光施設の情報発信など、公園の魅力や利用価値を高めるサービスを充実させます。また、こうした取組を継続的かつ効果的に進めるための公園マネジメントを推進します。

＜具体的な取組内容＞

・日本平公園の整備をきっかけとして、市民や地域団体、観光関係者、民間事業者などの多様な主体が関わる管理運営体制を構築し、名勝の価値の適切な保存と活用を促進する。